

自動継続自由金利型定期預金規定（大口定期預金）

〈自動継続型〉

第1条（自動継続）

- (1) 自動継続自由金利型定期預金（以下「この預金」といいます。）は、証書・通帳記載の満期日に前回と同一の期間の自由金利型定期預金に自動的に継続します。継続された預金についても同様とします。
- (2) この預金の継続後の利率は、継続日における当金庫所定の利率とします。ただし、この預金の継続後の利率について別の定めをしたときは、その定めによるものとします。
- (3) 継続を停止するときは、満期日（継続をしたときはその満期日）の前日までにその旨を申出てください。この申出があったときは、この預金は満期日以後に支払います。

第2条（利息）

- (1) この預金の利息は、預入日（継続をしたときはその継続日。）から満期日の前日までの日数（以下「約定日数」といいます。）および証書・通帳記載の利率（継続後の預金については前第1条第2項の利率。以下「約定利率」といいます。）によって計算し、満期日に支払います。
ただし、預入日の2年後の応当日から預入日の5年後の応当日までの日を満期日としたこの預金の利息の支払いは次によります。
 - ① 預入日から満期日の1年前の応当日までの間に到来する預入日の1年ごとに応当日を「中間利払日」とし、預入日または前回の中間利払日からその中間利払日の前日までの日数および証書・通帳記載の中間利払利率（継続後の預金の中間利払利率は、継続後の預金の利率に70%を乗じた利率。ただし、小数点第4位以下は切捨てます。）によって計算した中間利払額（以下「中間払利息」といいます。）を利息の一部として、各中間利払日に支払います。
 - ② 中間払利息（中間利払日が複数ある場合は各中間払利息の合計額）を差引いた利息の残額（以下「満期払利息」といいます。）は満期日に支払います。
- (2) この預金の利息の支払いは、次のとおり取扱います。
 - ① 預入日の1ヵ月後の応当日から預入日の2年後の応当日の前日までの日を満期日としたこの預金の利息は、あらかじめ指定された方法により、満期日に指定口座へ入金するか、または満期日に元金に組入れて継続します。
 - ② 預入日の2年後の応当日の翌日から預入日の5年後の応当日までの日を満期日としたこの預金の中間払利息は、中間利払日に指定口座へ入金します。また、満期払利息は、あらかじめ指定された方法により満期日に指定口座へ入金するか、または満期日に元金に組入れて継続します。
 - ③ 利息を指定口座へ入金できず現金で受取る場合には、当金庫所定の払戻請求書に届出の印章により記名押印して証書または通帳とともに提出してください。
- (3) 継続を停止した場合のこの預金の利息（中間払利息は除きます。）は、満期日以後にこの預金とともに支払います。なお、満期日以後の利息は、満期日から解約日または書替継続日の前日までの日数および解約日または書替継続日における普通預金の利率により計算します。
- (4) この預金を「定期預金共通規定」第5条第1項により満期前に解約する場合および「定期預金共通規定」第5条第4項および第5項の規定により解約する場合には、その利息（以下「期限前解約利息」といいます。）は、預入日（継続をしたときは最後の継続日。以下同じです。）から解約日の前日までの日数（以下「預入日数」といいます。）および次の利率によって計算

し、この預金とともに支払います。ただし、中間払利息が支払われている場合には、その支払額（中間利払日が複数ある場合は各中間払利息の合計額）と期限前解約利息との差額を清算します。

① 預入日の1ヵ月後の応当日の前日までに解約する場合

解約日における普通預金の利率。（小数点第4位以下は切捨てます。）

② 預入日の1ヵ月後の応当日以後に解約する場合

次のAおよびBのいずれか低い利率。（小数点第4位以下は切捨てます。）

A. 約定利率×70%

B. 預入日（継続をしたときは最後の継続日）から解約日までの預入期間に対応する解約日の店頭表示利率（基準利率）

(5) この預金の付利単位は1円とし、1年を365日とした日割で計算します。

第3条（定期預金共通規定の適用）

この預金には、本規定の他「定期預金共通規定」が適用されるものとします。

以上

R 3. 4. 1